

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち		
施策分野	1	教育環境の整備	担当課	教育総務課
目 標	児童・生徒が学習しやすいまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
成果指標	学校施設の耐震化率	(H22年度末) 77.80%	97.00%	100%	A
	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	(H22年) 12.0人	8.2人	3.6人	B

	指 標	H23	H24	これまでの 推移
これまでの 推 移	学校施設の耐震化率	82.4%	97.0%	↗
	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	11.8人	11.5人	→

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 総合的教育行政の推進	小中学校施設管理のあり方検討会の開催	3回/年	1回/年 (延べ7回)	延べ15回	B-
02 学校施設の耐震化	学校施設の耐震化率	77.8%	97.00%	100%	A
03 学校給食のあり方の検討	給食実施校（委託校を除く。）1校当たりの正規調理員の配置人数	1.7人 (17人/10校)	2.0人 (16人/8校)	2.0人	A
04 情報教育環境整備の充実	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	12.0人	8.2人	3.6人	B

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
保護者と地域の方たちとの協働による教育環境の整備	市内全ての小中学校において、PTAと教職員による学校内の清掃奉仕作業が定期的実施されているほか、校舎内のペンキの塗り替え作業等、各種業界団体からの協力も得ながら教育環境の美化に努めている。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	国の補助金・交付金の活用や「手段の選択と集中」などにより、教育施設の耐震化や情報化が一步ずつ進められているほか、学校給食の完全実施の道筋を付けるなど、児童・生徒が学習しやすい教育環境の着実な整備が進められている。	教育施設の耐震化や情報化、さらには学校給食の完全実施など、引き続き着実な整備を進めながら、今後は学区の再編や学校の統廃合及び学校施設の計画的改修などの「総合的教育行政の推進」への取組を目指す。
方策01	平成22年度から開催しているあり方検討会の意見を参考に、小中学校の耐震化や中学校給食実現への道筋はつけることができた。	今後も定期的開催し、学校、父兄及び学識経験者の意見をもとに学校環境の向上を目指す。
方策02	各小中学校施設の耐震補強工事を計画的に実施し、目標達成が間近である。	平成26年度に西小学校屋内運動場改築工事を実施することで、文部科学省の定める耐震基準については耐震化完了となる。
方策03	平成24年度の「学校給食運営計画」の策定に始まり、25年度には本市初となる民間委託による親子給食を開始するなど、基本計画に掲げた課題対応が早期かつ着実に達成されている。	平成26年度の宇佐美中の給食開始と平成28年度2学期からの残る3中学校での給食センターからの給食配送、さらには給食センターからの配送校を小学校に拡大するなど、明確な道筋に対し、確実な実施を図る。
方策04	教育用コンピューター1台当たりの児童生徒数は改善した一方、実物投影機や電子黒板等の映像機材、校内無線LAN及び超高速インターネット回線への接続が遅れている。	国が定める新たな整備目標の達成に向け、導入機材に優先順位をつけ平成29年度までの目標達成を目指す。

第九次基本計画 中間評価（3-2）

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち		
施策分野	2	教育の充実（幼稚園）	担当課	幼児教育課
目 標	どの子ども夢を持ち、のびのびと活動する園のあるまちを目指します			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
	幼稚園が楽しいと思う子どもの割合	(H22.3) 97.9%	(H26.3) 99.0%	99.00%	A

これまでの 推 移	指 標	H23	H24	これまでの 推移
	幼稚園が楽しいと思う子どもの割合	98.20%	97.00%	→

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 幼稚園教育に充実	教育課程の編成等小学校と連携している園数	13園	13園	14園	B
02 保護者と共に子どもの育ちを支える	子育て支援事業を実施している幼稚園の割合	50.0%	100.0%	100.0%	A
03 集団保育を実施するための環境整備	集団保育を行い難い小規模園数	4園	4園	3園	B
04 子育てニーズに応じた幼保連携の推進	教諭・保育士資格の併有率	-	67.7%	80.0%	B

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
地域行事、園行事を通しての地域住民との相互交流	地域の祭典等を通じての交流、老人クラブ、老人施設等異世代交流の実施

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	年度により保護者の評価に高低はあるものの、全般的に目標の指標に近づいている。	各幼稚園の教育目標に近づける保育を目指す。
方策01	保育園・小学校との交流活動実施園が増えている。	「伊東市保幼小連携プログラム」を効果的に活用していく。
方策02	平日における保護者保育参加が難しい。	保護者が参加しやすい日程等を考慮する。
方策03	本分園、地域ごとの園での交流回数が増えている。	より好ましい集団保育の環境作りをすすめる。
方策04	幼保の職員がそれぞれの園での交流研修を実施している。	日々の保育だけでなく、保育計画等の相互理解を促進していく。

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち		
施策分野	3	教育の充実（小・中学校）	担当課	教育指導課
目 標	将来に夢を持ち、どの子ども生き生きと活動する学校のあるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
成果指標	学校が楽しいと思う 子どもの割合	小学校 88.8% 中学校 76.0%	小学校 90.0% 中学校 82.1%	小学校 95% 中学校 90%	B

	指 標	H22	H24	これまでの 推移
これまでの 推 移	学校が楽しいと思う 子どもの割合	小学校 88.8% 中学校 76.0%	小学校 91.6% 中学校 84.7%	↑

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H23)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 基礎学力の向上	授業が分かると思う子どもの割合	—	小学校 87.4% 中学校 82.5%	小学校 90% 中学校 80%	B-
02 豊かな人間性・社会性の育成	近所や知り合いの人にあいさつをしている子どもの割合	—	小学校 86.6% 中学校 98.8%	小学校 95% 中学校 95%	B
03 健康な身体と基本的な生活習慣づくりの推進	朝食を摂取している子どもの割合	91.0%	97.4%	100%	B
04 地域連携・地域交流の推進	地域の行事や活動に積極的に参加している子どもの割合	—	小学校 77.3% 中学校 75.6%	小学校 80% 中学校 70%	B+
05 教育的支援体制の充実	教育的支援が必要な子どもに必要な支援の提供	—	適正処理	適正処理	B-

※ 01, 02, 04, 05については、H24年度が初年度調査である。

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
学校行事への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会、文化祭等学校行事への参加 ・ 授業参観、オープンスクールの実施 ・ 青少年育成会との連携

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	・ H22年度の基準値から、着実に目標値に近づいている。	・ 今後も継続して期限に向けての計画的な取組を進め、達成度を向上させていく。
方策01	・ 中学校では既に目標値に到達しているが、継続的な取組が必要である。	・ 「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえ、基礎学力の向上に向けた積極的かつ重点的な取組を行っていく。
方策02	・ 当初の想定通りに推移し、中学校では既に目標値に到達している。	・ 道德教育の一層の充実を図り、児童生徒の道徳性を高めていく。
方策03	・ 当初の想定通りに推移し、朝食摂取率は上昇傾向にある。	・ 引き続き朝食摂取の大切さについて、全児童・生徒を対象にお便りを配布する等の取組を進める。
方策04	・ 当初の想定以上に推移し、中学校では既に目標値に到達している。	・ 「未来協知」の理念の基、地域と学校との連携を一層深めていく。
方策05	・ 通常学級において、特別な支援が必要な児童生徒が増加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育支援員等を計画的に増員し、必要な学校に配置していくことで、特別支援教育の体制を一層充実させていく。 ・ 通級指導教室の増級を県へ要望するとともに、指導に必要な教材整備等の支援をしていく。

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち		
施策分野	4	生涯学習活動の推進	担当課	生涯学習課
目 標	市民が生涯を通じていつでもどこでも快適に学習できるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
成果指標	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	2.09回	1.89回	2.59回	C
	市民1人当たり図書貸出し冊数	(H21) 2.86冊	2.98冊	4.50冊	C

	指 標	H23	H24	これまでの 推移
これまでの 推 移	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	1.91回	1.91回	→
	市民1人当たり図書貸出し冊数	3.10冊	3.05冊	→

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 生涯学習機会の提供	中央会館・ひぐらし会館に登録している団体の数	588団体	735団体	780団体	B-
02 市民の自主的生涯学習活動の推進	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	2.09回	1.89回	2.59回	C
03 図書館機能の充実	市民1人当たり図書貸出し冊数	2.81冊	2.98冊	4.50冊	C

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
自主的な生涯学習活動の広がり	市民大学やいでゆ大学の受講生が受講後に新たなサークルを作り自主的に活動を行っていることから今後も機会の提供や情報発信・提供に努めていく。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設によっては利用希望場所・時間が重複してしまうことによる生涯学習活動の参加回数の伸び悩み。 ・図書館配架スペースの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中仕事をしている市民が参加しやすい時間帯（夜間等）のサークル等が育つ環境を整える。 ・配置を工夫する等で配架できる本の冊数を増やすとともに利用されやすい移動図書館のステーションやWeb予約の普及により貸出冊数の増加を図る。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・登録団体は順調に増加していることから、会場確保に多くの団体が苦慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページでは中央及びひぐらし会館の空き状況を確認できるが4コミセン、3生涯学習センターは電話での確認となっていることからWeb化し、簡単に施設の空き状況が確認できるようにしていく。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・施設によっては利用希望場所・時間が重複してしまうことによる生涯学習活動の参加回数の伸び悩み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中仕事をしている市民が参加しやすい時間帯（夜間等）のサークル等が育つ環境を整える。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館配架スペースの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・配置を工夫する等で配架できる本の冊数を増やすとともに利用されやすい移動図書館のステーションやWeb予約の普及により貸出冊数の増加を図る。

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち		
施策分野	5	市民スポーツ活動の支援		生涯学習課
目 標	市民が気軽に快適にスポーツができるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの達成状況
	スポーツ施設の利用状況	(H22) 315,251人	299,759人	330,000人	B

これまでの推移	指 標	H23	H24	これまでの推移
	スポーツ施設の利用状況	315,966人	327,578人	↑

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成状況
01 スポーツ指導者の養成	指導者数	104人	87人	110人	C
02 スポーツ大会の実施	回数、参加者数	6回 11,073人	5回 10,701人	6回 11,110人	B-
03 体育施設の整備	既存施設大規模改修及び施設体育施設整備に向けた取組み回数	0回	3回	5回	C

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
スポーツ活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員による健康教室及び伊東市振興公社によるスポーツ教室の開催 ・各大会運営への地域体育振興会、市民、高校生等のボランティアの参加 ・各地域主催の体育大会の開催

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	スポーツ施設の利用者数は変動があるが、利用件数は安定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設を有効利用するため、施設整備に努める。 ・新設体育施設整備のため、調査・研究に努める。
方策01	スポーツ指導者の確保が難しい。	スポーツ指導者の確保のため、スポーツ指導者の募集を広報誌に折込む等、周知を図る。
方策02	陸上カーニバル、オレンジビーチマラソンについては、年々参加者が増加している。	各種大会の参加者増を目指し、内容の充実や周知に努める。
方策03	既存施設の老朽化。	指定管理者と連絡を密にし、既存施設の適正な管理をするとともに、新設体育施設についての調査・研究に努める。

第九次基本計画 中間評価（3-6）

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち		
施策分野	6	歴史・芸術文化の振興	担当課	生涯学習課
目 標	市民が気軽に歴史、芸術文化に触れることができるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
成果指標	歴史文化に触れた人数	13,100人	10,261人	15,850人	C
	芸術文化に触れた人数	(H22) 芸術祭参加者数 13,214人	12,909人	14,200人	B-

	指 標	H23	H24	これまでの 推移
これまでの 推 移	歴史文化に触れた人数	12,699人	11,375人	↓
	芸術文化に触れた人数	13,802人	12,624人	↓

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 歴史、芸術文化に触れる機会の創出	市内文化施設及び市芸術祭の入場者数等	24,636人	22,435人	30,050人	C
02 歴史文化情報の発信	講演会等の参加人数	165人	349人	850人	B-
03 芸術文化活動の支援	後援件数	49件	50件	70件	B-

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
文化や文化財を愛護する市民や市民団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを中心とした伝統文化育成事業への補助制度。 市民文化の振興のため、文化協会と連携。 地域の文化財を愛護する団体と連携し、文化財の保護・普及に努めた。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・市内文化施設への入館者数が減少傾向にある。 ・芸術祭参加者は減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の一般的なPRとともに、学校での利用を呼びかけ、学社連携で入館者増を目指す。 ・芸術祭参加者自身による入場者への呼びかけと、ワークショップの開催等、内容の充実を図る。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・市内施設の入館者数、芸術文化活動参加者数の減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の一般的なPRとともに、学校での利用を呼びかけ、学社連携で入館者増を目指す。 ・芸術祭参加者自身による入場者への呼びかけと、ワークショップの開催等、内容の充実を図る。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護啓発イベントの実施回数が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護啓発イベントの実施回数を増やし、文化財に興味を持つ機会を増やす。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・文化イベントに対し、市及び教育委員会の後援が取れるということが、イベント主催者に浸透しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後援申請について積極的なアピールを行っていく。

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち		
施策分野	7	国際交流の推進	担当課	市長公室課
目 標	身近な所で異文化交流が楽しめるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
	国際交流に関する体験や行事に参加した市民の割合	(H21年度) 13.5%	13.0%	18.5%	C

これまでの 推 移	指 標	H23	H24	これまでの 推移
	国際交流に関する体験や行事に参加した市民の割合	—	9.1%	→

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 国際交流事業の推進	国際交流イベント参加者数	1,500人	1,300人	1,700人	C
02 外国人住民の日常生活環境の支援	日本語教室受講者数	670人	646人	800人	C
03 国際理解の啓発	国際交流関係講座数	4講座	5講座	6講座	B-

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
市民参加による国際交流イベントの実施	国際交流フェスタや異文化理解講座などを開催している。また、平成24年度はイギリス・メドウェイ市との友好都市締結30年を記念し、市民参加によるヨーロッパ訪問団を結成、メドウェイ市のほかに同じく友好都市であるイタリア・リエティ市も訪れている。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・基準値である平成21年度から3年後に4.4%下がった。 ・現状は基準値近くまで上がったが、目標値には遠い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流フェスタへの参加市民を増やし、国際交流への関心を深めてもらう。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で行われる最大の国際交流イベントである国際交流フェスタは、参加者が年々増加している。 ・他のイベントの参加者増減は横ばいである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のイベントの参加市民を増やす方を試みる。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民のための日本語教室は伊東国際交流協会の事業として定着し、年間を通し外国人が日本語を学んでいる。 ・平成21年度から平成24年度まで文化庁の委託を受けて行った。 ・平成25年度からは委託を受けず、平成20年度以前同様、講師はボランティアで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で生活していく上で、外国人が日本語を学べる場は大変貴重なため、継続実施できるよう支援していきたい。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・伊東国際交流協会が「21世紀アカデミー」を再開し、ネイティブの講師による幼児への英語や絵画の指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化を理解するため、外国を知る機会となる講座を今後も数多く開催したい。

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち		
施策分野	8	青少年の健全な育成	担当課	生涯学習課
目 標	青少年が豊かな人間性、社会性を身につけ、健やかに育つまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
	あいさつ運動賛同者数	13,100人	16,343人	17,100人	B

これまでの 推 移	指 標	H23	H24	これまでの 推移
	あいさつ運動賛同者数	15,036人	16,043人	↑

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 声かけ・あいさつ運動の推進	あいさつ運動賛同者数	14,758人	16,343人	17,100人	B
02 非行防止体制の強化	青少年補導の参加率	59.0%	60.00%	80.00%	C
03 地区青少年健全育成活動の活性化	小学生ふるさと教室の延べ人数	221人	393人	500人	B-
04 次世代を担うリーダーの育成	夢チャレンジクラブの参加延べ人数	83人	42人	100人	C

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
地域の青少年声かけ活動の推進	学校・地域・職場等で行われているあいさつ運動を7月と11月に一斉活動として実施したことにより、市民の活動として定着、発展してきている。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	・市民活動として順調に賛同者が増加している。	・平成26年度はあいさつ運動の10周年となることから、民間団体の協力を得ながら、更なる事業の発展を目指す。
方策01	・市民活動として順調に賛同者が増加している。	・平成26年度はあいさつ運動の10周年となることから、民間団体の協力を得ながら、更なる事業の発展を目指す。
方策02	・補導活動は積極的に行われているが、実施時間により仕事等で参加できない補導員もいる。	・日時を工夫をすることにより参加しやすい補導体制を充実させる。
方策03	・小学生ふるさと教室は参加率が高く、本年度の皆勤賞は42人中10人となった。	・今後も小学生が興味を持つプログラムを作成し高い参加率と参加者増加を目指す。
方策04	・夢チャレンジくらぶの中高生はリーダーの自覚が醸成され回を増すごとにリーダーに相応しい行動がとれた。	・部活や学校行事で参加できない事業もあったことから参加者の積極的募集を行い参加者の増加を目指す。